

[古文シリーズ] 古文に親しむ1

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

①現代文を参考にして、次の古文に句点「。」をつけましょう。句点「。」の数は現代文と同じになるようにしましょう。

②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)

③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章 竹取物語

今は昔、竹取のおきなといふものありけり  
野山にまじりて竹を取りつつ、よるずのこと  
に使いけり名をば、さぬきのみやつことなむ  
いひける  
その竹の中に、もと光る竹なむ、一筋あり  
けるあやしがりて寄りて見るに、筒の中光り  
たりそれをみれば、三寸ばかりなる人、いと  
うつくしうてみたり

現代の言葉での文章 (6文)

今となつてはもう昔のことになりませんが、竹取のお  
きなという人がいました。野山に分け入って竹を取り、  
いろいろなことに使っておりました。なまえを、さぬ  
きのみやつこといいました。  
(ある時)その竹の中に、根本が光る竹が一本ありま  
した。おかしいなと思つて近寄つて見てみると、(その  
竹の)筒の中が光っていました。それを見ると、三寸く  
らいの大きさの人が、とてもかわいらしい姿で座つて  
いました。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ1

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

今は昔、竹取のおきなど  
いふものありけり。野山に  
まじりて竹を取りつつ、よ  
ろずのことに使いけり。名  
をば、さぬきのみやつこと  
なおいひける。  
その竹の中に、もと光る  
竹なむ、一筋ありける。あ  
やしがりて寄りて見るに、  
筒の中光りたり。それを見  
れば、三寸ばかりなる人、  
いとうつくしうてみたり。

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ2

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

①現代文を参考にして、次の古文に句点「。」をつけましょう。句点「。」の数は現代文と同じになるようにしましょう。

②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)

③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章 平家物語

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり  
娑羅双樹の花の色、盛者必衰のことにわりを  
あらはすおごれる人も久しからず、ただ春  
の夜の夢のごとくしたけき者もつひには滅び  
ぬ、ひとへに風の前の塵に同じ

祇園精舎 ぎおんしょうじや  
鐘 かね  
諸行無常 しよぎょうむじょう  
娑羅双樹 しゃらそうじゆ  
盛者必衰 じょうしやひっすい

現代の言葉での文章 (4文)

ま な  
う、(それは)風の前の塵と同じである。  
いものである。勢いが盛んな人も最後には滅びてし  
(それは)まるで春の夜の夢みたいにみじかくはか  
る。おごり高ぶった人でも長くは続かず、  
娑羅双樹の花の色は、盛者必衰の道理を表してい  
る。おごり高ぶった人でも長くは続かず、  
祇園精舎の鐘の音には、諸行無常の響きがある。  
娑羅双樹の花の色は、盛者必衰の道理を表してい

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ2

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

諸行無常の響きあり。  
 祇園精舎の鐘の声、  
 娑羅双樹の花の色、  
 盛者必衰のこわりを  
 あらはす。  
 おごれる人も久しか  
 らず、ただ春の夜の夢  
 のごとし。  
 たけき者もつひには  
 滅びぬ、ひとへに風の  
 前の塵に同じ。

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ3

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

①現代文を参考にして、次の古文に句点「。」をつけましょう。句点「。」の数は現代文と同じになるようにしましょう。

②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)

③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章

枕草子①

春はあけぼのやうやう白くなりゆく山ぎは、少しあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる

夏は夜月のころはさらなり、やみもなほ、螢の多く飛びちがひたるまた、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし雨など降るもをかし

現代の言葉での文章 (6文)

春は明け方(が趣があっている)。だんだん白くなっていく山ぎわが、少しずつ光りを増してきて、紫がかかった雲が細くたなびいている(のは趣がある)。

夏は夜(が趣があっている)。月のころはいまでもないし、やみ夜でもやはり、螢がたくさん飛びかっている(ようすは趣がある)。また、(たくさんでなくても)ほんの一匹二匹が、ほのかに光りながら飛んでいるのも(趣がある)。雨などが降るのも趣があっている。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ3

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

春はあけぼの。やうや  
う白くなりゆく山ぎは、  
少しあかりて、紫だちた  
る雲の細くたなびきたる。  
夏は夜。月のころはさ  
らなり、やみもなほ、螢  
の多く飛びちがひたる。  
また、ただ一つ二つなど、  
ほのかにうち光りて行く  
もをかし。雨など降るも  
をかし。

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ4

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

①現代文を参考にして、次の古文に句点「。」をつけましょう。句点「。」の数は現代文と同じになるようにしましょう。

②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)

③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章 枕草子②

秋は夕暮れ夕日のさして山の端いと近う  
なりたるに、からすの寝所へ行くとして、三  
つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれ  
なりまいてかりなどの連ねたるが、いと小  
さく見ゆるはいとをかし日入り果てて、風  
の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず

現代の言葉での文章 (4文)

秋は夕暮れ(が趣があっている)。夕日が差し込んで、山の端がとても近くに見えるところに、からすがねどころへ行くのだろうか、三つ四つ、二つ三つなど(ばらばらに)飛び急いでいる姿もまた心にしみる趣がある。ましてかりなどが列を作っている様子が、たいへん小さく見えるのは、とても趣がある。日がすっかり暮れて、風の音や、虫の音などは、また言うまでもない(くらい趣がある)。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ4

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

秋は夕暮れ。夕日のさ  
して山の端いと近うなり  
たるに、からすの寝所へ  
行くとて、三つ四つ、二  
つ三つなど飛び急ぐさへ  
あはれなり。まいてかり  
などの連ねたるが、いと  
小さく見ゆるはいとをか  
し。日入り果てて、風の  
音、虫の音など、はた言  
ふべきにあらず。



## [古文シリーズ] 古文に親しむ5

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

①現代文を参考にして、次の古文に句点「。」をつけましょう。句点「。」の数は現代文と同じになるようにしましょう。

②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)

③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

## 古文の文章 枕草子③

冬はつとめて雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭持て渡るも、いとつきづきし昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火をけの火も、白き灰がちになりてわろし

## 現代の言葉での文章 (3文)

冬は早朝(が趣があっている)。雪が降っている様子は言うまでもないし、霜がとても白い様子も、またそうでなくてもとも寒いときに、火などを急いでおこして、炭火の火を(あちらこちらに)持つて行くのも、とても似つかわしい。昼になって、(寒さが)しだいに和らいでくると、火桶の火も、白い灰が多くなってよくない。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ5

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭持て渡るも、いとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火をけの火も、白き灰がちになりてわろし。

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ6

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。

②解答解説シートにある古文を音読しましょう。

(すらすら読めるまで繰り返しましょう)

③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章 おくのほそ道①

月日は百代の過客にして行き交ふ年もまた  
旅人なり舟の上には生涯を浮かべ馬の口とらへ  
て老いを迎ふる者は日々旅にして旅をすみか  
とす古人も多く旅に死せるあり

百代 百代  
過客 かく

現代の言葉での文章

月日は永遠の時間を通り過ぎていく旅人のようなものであつて、やってきては去つてゆく年もまた旅人である。(船頭として)舟の上で働いて一生を送り、(馬方として)馬のくつわを引いて年をとっていく人々は、毎日が旅であつていわば旅を自分の住まいとしているようなものである。昔の人の中にも多く旅の途中で亡くなった人がいる。

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ6

年 組 氏名

---

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

月日は百代の過客にして、  
行き交ふ年もまた旅人なり。  
舟の上に生涯を浮かべ、  
馬の口とらへて老いを迎ふ  
る者は、日々旅にして旅を  
すみかとする。  
り。 古人も多く旅に死せるあ

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ7

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。

②解答解説シートにある古文を音読しましょう。

(すらすら読めるまで繰り返しましょう)

③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章 おくのほそ道②

予もいづれの年よりか片雲の風に誘はれて  
 漂泊の思いやまず海浜にさすらへて去年の秋  
 江上の破屋にくもの古巢を払ひてや年も暮  
 れ春立てるかすみ空に白河の関超えむとそ  
 ろ神の物につきて心を狂はせ道祖神の招き  
 に会ひて取るもの手につかず

去年 こそ  
 道祖神 どうそじん

現代の言葉での文章

私もいつの年からか、ちぎれ雲が風に誘われて空を流れ  
 ていくように、あてのない旅に出たいという思いがやまず、  
 海辺の地方をさまよい歩き、去年の秋、隅田川のほとりの  
 あばら家に戻りくもの古い巢を払って住んでいるうちに、  
 やがて年も暮れ、立春になって空にかすみがちこめるよ  
 うになると、白河の関をこえていききたいものだ、そぞろ  
 神がとりついて私の心をそわそわさせ、道祖神が招いてい  
 るような気がして、取る物も手につかない。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ7

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

予もいづれの年よりか、  
片雲の風に誘はれて、漂泊の  
思いやまず、海浜にさすらへ  
て、去年の秋、江上の破屋に  
くもの古巢を払ひて、やや年  
も暮れ、春立てるかすみの空  
に、白河の関超えおと、そぞ  
ろ神の物につきて心を狂は  
せ、道祖神の招きに会ひて、  
取るもの手につかず。

「おくのほそ道」よ

[古文シリーズ] 古文に親しむ8

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。

②解答解説シートにある古文を音読しましょう。

(すらすら読めるまで繰り返しましょう)

③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章 おくのほそ道③

もも引きの破れをつづりかさの緒付け替へて三里に灸すうるより松島の月まづ心にかかりて住めるかたは人に譲りて杉風が別墅に移るに

草の戸も住み替はる代ぞひなの家

面八句を庵の柱に懸け置く

別墅 べっしょ

現代の言葉での文章

もも引きの破れを繕い、笠のひもを付け替えて、三里に灸をすえると、松島の月はどんなだろうとまず気にかかって、今まで住んでいた家は人に譲り、杉風の別荘に移るにあたって、

草の戸も住み替わる代ぞ雛の家

(と詠んで)これを発句として面八句を懐紙に書き記して庵の柱に掛けておいた。

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ8

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

もも引きの破れをつづり、  
かさの緒付け替へて、三里に  
灸すうるより、松島の月まづ  
心にかかりて、住めるかたは  
人に譲りて、杉風が別墅に移  
るに、  
草の戸も住み替はる代ぞ  
ひなの家  
面八句を庵の柱に懸け置く。

「おくのほそ道」よ



## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ9

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

- ①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
- ②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)
- ③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

## 古文の文章 竹取物語「天の羽衣①」

天人の中に持たせたる箱あり天の羽衣入り  
りまたあるは不死の薬入れり一人の天人言ふ  
「壺なる御薬たてまつれきたなき所の物きこ  
しめしたれば御心地あしからむものぞ」とて  
持て寄りたればいささかなめたまひて少し形  
見とて脱ぎ置く衣に包まむとすればある天人  
包ませず

天の羽衣 あまのはごろも

## 現代の言葉での文章

天人の中(の一人)に、持たせてある箱がある。天の羽衣が入っている。またもう一つある箱には、不死の薬が入っている。一人の天人が言うには、「壺の中に入っている御薬をお飲みください。けがれた地上のものをお召し上がりになつたので、ご気分が悪いことでしょう。」と言って、(薬の壺を)持って(姫の)そばに寄つたところ、ちょっとおなめになつて、少し形見として脱いで残しておく着物に包もうとすると、(そこに)いる天人が包ませない。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ9

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

天人の中に、持たせたる箱あり。天の羽衣入れり。またあるは、不死の薬入れり。一人の天人言ふ、「壺なる御薬たてまつれ。きたなき所の物きこしめしたれば、御心地あしからおもものぞ。」とて、持て寄りたれば、いささかなめたまひて、少し形見とて、脱ぎ置く衣に包まむとすれば、ある天人包ませず。

「竹取物語」より

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ10

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

- 今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
- 古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

- ①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
- ②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)
- ③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

## 現代の言葉での文章

その天の羽衣を取り出して、(かぐや姫に)着せようとする。その時にかぐや姫は、「ちよつと待ちなさい。」と言う。「(天人が)衣を着せてしまった人は、心が(人間世界とは)変わってしまふと言います。(その前に)ひと言、言っておかなくてはならないことがあったのです。」と言って、手紙を書いた。

## 古文の文章 竹取物語「天の羽衣②」

御衣をとり出て着せむとすその時にかぐや姫「しばし待て」と言ふ「衣着せつる人は心異なるなりと言ふものひと言言ひ置くべきことありけり」と言ひて文書く

御衣 みぞ

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ10

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

り  
御衣をとり出て、着せおとす。その時に、かぐや姫、「しばし待て。」と言ふ。  
「衣着せつる人は、心異になるなりと言ふ。ものひと言、言ひ置くべきことありけり。」と言ひて、文書く。  
「竹取物語」よ

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ11

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

- ①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
- ②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
 (すらすら読めるまで繰り返しましょう)
- ③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章 竹取物語 「かぐや姫の昇天」

中将取りつればふと天の羽衣うち着せたて  
 まつりつれば翁を「いとほし、かなし」  
 とおぼしつることも失せぬこの衣着つる人は  
 物思ひなくなりにつれば車に乗りて百人ばかり  
 天人具して昇りぬそののち翁・姫、血の涙  
 を流して惑へどかひなし

翁 おきな 姫 おうな

現代の言葉での文章

中将が(手紙と壺を)受け取ると、(天人が)さっと天の羽衣を(かぐや姫に)着せてさしあげたので、  
 おじいさんのことを、「気の毒だ、かわいそうだ。」  
 とお思いになつていたことも消え失せてしまった。  
 この天の羽衣を着た人は地上の人間としての感情がなくなつてしまつたので、(そのまま)天を飛ぶ車に乗って、百人ほどの天人を引き連れて、(月の世界に)昇つてしまつた。  
 そののち、おじいさんとおばあさんは、血の涙を流して悲しむけれども、どうにもしかなかったが、ない。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ11

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

中将取りつれば、ふと天の  
 羽衣うち着せたてまつりつれ  
 ば、  
 翁を、「いとほし、かなし。」  
 とおぼしつることも失せぬ。  
 この衣着つる人は物思ひな  
 くなりければ、車に乗りて、  
 百人ばかり天人具して、昇り  
 ぬ。  
 そののち、翁・姫、血の涙  
 を流して惑へど、かひなし。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ12

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

- ①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
- ②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)
- ③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

## 古文の文章 徒然草「序段」

心 つれづれなるままに日暮らし硯に向かひて  
 書きうつりゆくよしなし事をそこはかどなく  
 つくれればあやしうこそものぐるほしけれ

## 現代の言葉での文章

なにもすることがなく退屈であるのにまかせて、一日中、硯に向かいながら、心に次々と浮かんで消えていくと、とめもないことを、なんとというあてもなく書きつけていると、あきれるほど気分が高ぶってくるのであるよ。

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ12

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

り

「徒然草」よ

つれづれなるままに、日暮  
らし、硯に向かひて、心にう  
つりゆくよしなし事を、そこ  
はかたなく書きつくれば、あ  
やうこそものぐるほしけれ。



〔古文シリーズ〕 古文に親しむ13

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。

②解答解説シートにある古文を音読しましょう。

(すらすら読めるまで繰り返しましょう)

③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章

徒然草「第五十二段①」

仁和寺にある法師年寄るまで石清水を拜ま  
 ざりければ心うく覚えてあるとき思ひたちて  
 ただ一人徒歩より詣でけり極楽寺・高良など  
 を拜みてかばかりと心得て帰りにけり

仁和寺  
 徒歩  
 極楽寺  
 にななじ  
 かち  
 ごくらくじ

現代の言葉での文章

仁和寺にいた僧が、年をとるまで石清水八幡宮をお参り  
 したことがなかったもので、残念に思われて、ある時思い  
 立って、ただ一人で徒歩で参詣した。  
 ふもとの極楽寺や高良大明神などを拜んで、これだけの  
 ものと思ひ込んで帰ってしまった。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ13

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

り  
「徒然草」よ

仁和寺にある法師、年寄る  
まで石清水を拝まざりければ、  
心うく覚えて、あるとき思ひ  
たちて、ただ一人、徒歩より  
詣でけり。  
極楽寺・高良などを拝みて、  
かばかりと心得て帰りにけり。

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ14

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。

②解答解説シートにある古文を音読しましょう。

(すらすら読めるまで繰り返しましょう)

③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章 徒然草「第五十二段②」

さてかたへの人にあひて「年ごろ思ひつる  
こと果たしはべりぬ聞きしにも過ぎて尊くこ  
そおはしけれそも参りたる人ごと山へ登り  
しは何事かありけんゆかしかりしかど神へ参  
るこそ本意なれと思ひて山までは見ず」とぞ  
言ひける少しのことにも先達はあらまほしき  
ことなり

現代の言葉での文章

帰って仲間の人に向かって、「長年の間思っていたことを  
成しとげました。前々から聞いていたのにもまさって、尊  
くあられました。それにしても、参詣に来た人々が皆山へ  
登っていったのは、山の上にも何事かあったのでしょうか、  
私も知りたかったのですが、神に参拝することこそが目的  
だと思って、山の上までは登ってみませんでした。」と言っ  
たのだった。  
ちよっとしたことにも、その道の指導者はあってほしい  
ものであす。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ14

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

きてかたへの人にあひて、  
 「年ごろ思ひつること、果た  
 しはべりぬ。聞きしにも過ぎ  
 て、尊くこそおはしけれ。そ  
 も、参りたる人ごとに山へ登  
 りしは、何事かありけん、ゆ  
 かしかりしかど、神へ参るこ  
 そ本意なれと思ひて、山まで  
 は見ず。」とぞ言ひける。  
 少しのことにも、先達はあ  
 らまほしきことなり。

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ15

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。

②解答解説シートにある古文を音読しましょう。

(すらすら読めるまで繰り返しましょう)

③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章 徒然草「第九十二段①」

ある人弓射ることを習ふに諸矢をたばさみて的に向かふ師のいはく「初心の人二つの矢を持つことなかれ後の矢を頼みて初めの矢になほざりの心あり毎度ただ得失なくこの一矢に定むべしと思へ」と言ふ

現代の言葉での文章

ある人が、弓を射ることを習うときに、二本の矢を手にして的に向かった。  
師匠の言うには、「初心者は、二本の矢を持ってはならない。後の矢をあてにして、初めの矢を射るときに油断が生じるものだ。毎回ただ命中するかどうか迷わず、この一本の矢で必ず当てようと思え。」と言う。

## [古文シリーズ] 古文に親しむ15

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

諸ある人、弓射ることを習ふに  
 師のいはく、「初心の人、二  
 つの矢を持つことなかれ。後の  
 矢を頼みて、初めの矢になほざ  
 りの心あり。毎度ただ得失なく  
 この一矢に定むべしと思へ。」  
 と言ふ。

「徒然草」より

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ16

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。

②解答解説シートにある古文を音読しましょう。

(すらすら読めるまで繰り返しましょう)

③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章 徒然草「第九十二段②」

わ  
せ  
ん  
と  
思  
は  
ん  
や  
懈  
怠  
の  
心  
自  
ら  
知  
ら  
ず  
と  
い  
へ  
ど  
も  
師  
こ  
れ  
を  
知  
る  
こ  
の  
戒  
め  
万  
事  
に  
わ  
た  
る  
べ  
し

懈怠 けだい

現代の言葉での文章

し  
よ  
う  
と  
思  
う  
だ  
ら  
う  
か。  
た  
っ  
た  
二  
本  
の  
矢  
な  
の  
に  
、  
師  
匠  
の  
前  
で  
、  
一  
本  
を  
お  
ろ  
そ  
か  
に  
油  
断  
す  
る  
心  
は  
、  
自  
分  
自  
身  
で  
は  
気  
づ  
か  
な  
く  
て  
も  
、  
師  
匠  
は  
こ  
れ  
を  
見  
通  
す。  
こ  
の  
教  
訓  
は  
、  
す  
べ  
て  
の  
こ  
と  
に  
通  
ず  
る  
で  
あ  
ら  
う。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ16

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

わずかに二つの矢、師の前  
にて、一つをおろかにせんと  
思はんや。  
懈怠の心、自ら知らずとい  
へども、師これを知る。  
この戒め、万事にわたるべ  
し。

「徒然草」よ



〔古文シリーズ〕 古文に親しむ17

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

- ①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
- ②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)
- ③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

かわいらしきもの。瓜に描いた幼児の顔。雀の子が、(人  
が)ねずみの鳴き声をまねてチュウチュウと呼ぶと、おどる  
ようにしてやってくる。  
二・三歳ぐらいの幼児が、急いではってくる途中に、た  
いそう小さい塵があつたのを、目ざとく見つけて、とても  
愛らしい指でつまんで、大人などに見せている様子は、ま  
ことにかわいらしい。髪をおかっぱに見せている幼児が、ま  
目に髪の毛がおおいかぶさっているのを手で払いのけもし  
ないで、ちよつと首をかしげて何かを見ているのも、かわ  
いらしい。

現代の言葉での文章

指 および

古文の文章 枕草子「第四百四十四段」  
うつくしきもの瓜にかきたるちこの顔雀の  
子のねずみ鳴きするに躍り来る二つ三つばかり  
なるちこの急ぎてはひ来る道にいと小さき塵  
のありけるを目ざとに見つけていとをかしげ  
なる指にとらへて大人などに見せたりと  
をつくし頭は尼そぎなるちこの目に見せたりと  
をかきはやらでうちかたぶきて物など見たる  
もうつくし

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ17

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

うつくしきもの。瓜にかき  
たるちごの顔。雀の子の、ね  
ず鳴きするに躍り来る。二つ  
三つばかりなるちごの、急ぎ  
てはひ来る道に、いと小さき  
塵のありけるを、目ざとに見  
つけて、いとをかしげなる指  
にとらへて、大人などに見せ  
たる、いとうつくし。頭は尼  
そぎなるちごの、目に髪の毛の覆  
へるをかきはやらで、うちか  
たぶきて物など見たるも、う

[古文シリーズ] 古文に親しむ18

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。

②解答解説シートにある古文を音読しましょう。

(すらすら読めるまで繰り返しましょう)

③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章

平家物語「扇の的①」

ころは二月十八日の酉の刻ばかりのことな  
るに折節北風激しくて磯打つ波も高かりけり  
舟は揺り上げ揺りすゑ漂へば扇もくしに定ま  
らずひらめいたり沖には平家舟を一面に並べ  
て見物す

酉の刻 とりのこく 磯 いそ

現代の言葉での文章

時は二月十八日の午後六時ごろのことであつたが、折か  
ら北風が激しく吹いて、岸辺を打つ波も高かつた。  
舟は上下に揺れて漂うので、扇もさおの先でひらひら揺  
れ動いて静止しない。  
沖のほうでは平家が、海上一面に舟を並べて見物してい  
る。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ18

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

ころは二月十八日の酉の刻  
ばかりのことなるに、折節北  
風激しくて、磯打つ波も高か  
りけり。  
舟は揺り上げ揺りすゑ漂へ  
ば、扇もくしに定まらずひら  
めいたり。  
沖には平家、舟をいちめん  
に並べて見物す。

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ19

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

- ①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
- ②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)
- ③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章 平家物語「扇の的②」

陸には源氏くつばみを並べてこれを見るい  
づれもいづれも晴れならずといふことぞなき  
与一目をふさいで「南無八幡大菩薩我が国の  
神明の権現宇都宮那須の湯泉大明神願は  
くはあの扇の真ん中射させてたばせたまへ

陸 くが 神明 しんめい 権現 ごんげん  
南無八幡大菩薩 なむはちまんたいぼさつ  
湯泉大明神 ゆぜんだいまいようじん

現代の言葉での文章

陸地では源氏が、馬のくつわを並べてこれを見守る。  
敵味方となくじっと注目するので、このうえなく晴れが  
ましいことである。  
与一は、目を閉じて、「どうか八幡大菩薩よ、我が故郷の  
神々、日光の権現、宇都宮大明神、那須の湯泉大明神よ、願  
わくはあの扇の真ん中を射させてくださいませ。

## [古文シリーズ] 古文に親しむ19

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。いづれもいづれも、晴れならずといふことぞなき。与一、目をふさいで、「南無八幡大菩薩、我が国の神明、日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、願はくはあの扇の真ん中射させてたばせたまへ。」

「平家物語」よ

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ20

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

- ①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
- ②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)
- ③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

現代の言葉での文章

これを射損じるならば、弦を断ち弓を折り自害して、二度と人に顔を合わせるつもりはありません。もう一度郷里に迎えてやろうとお思いなさいますならば、この矢が外れないようにしてください。」と、心のうちに念じて、目を開いて見てみると、風も少し弱まり、扇も射やすそうになった。

古文の文章 平家物語「扇の的③」

これを射損ずるものならば弓切り折り自害して人に二度面を向かふべからず一度本国へ迎へんとおぼしめさばこの矢外させたまふな」と心のうちに祈念して目を見開いたれば風も少し吹き弱り扇も射よげにぞなつたりける

二度 ふたたび

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ20

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

これを射損ずるものならば、  
弓切り折り自害して、人に二  
度面を向かふべからず。いま  
一度本国へ迎へんとおぼしめ  
さば、この矢外させたまふ  
な。」と、心のうちに祈念し  
て、目を見開いたれば、風も  
少し吹き弱り、扇も射よげに  
ぞなつたりける。  
「平家物語」よ



〔古文シリーズ〕 古文に親しむ21

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

- ①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
- ②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)
- ③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章 平家物語「扇の的④」

与一 鎬を取つてつがひよつ引いてひやうど  
放つ小兵といふちやう十二束三伏弓は強し浦  
響くほど長鳴りしてあやまたず扇のかなめ  
一 寸ばかりおいてひいふつとぞ射切たる  
は海へ入りければ扇は空へぞ上がりける  
鎬

鎬 かぶら 十二束三伏 じゅうにそくみつぶせ

現代の言葉での文章

与一は、鎬矢を取ってつがえ、引き絞ってひようと放つた。小柄な武者とはいいいながら、矢は十二束三伏と長く、弓も頑強なので、浦一帯に鳴り響くほど長いうなりをたて、あやまたず扇のかなめから一寸ほど離れた所を、ひいふつとみごとに射止めた。鎬矢は海に落ちると、扇は空へと舞い上がった。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ21

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

与一、鎬を取つてつがひ、  
 よつ引いてひやうど放つ。小  
 兵といふぢやう、十二束三伏、  
 弓は強し、浦響くほど長鳴り  
 して、あやまたず扇のかなめ  
 際一寸ばかりおいて、ひいふ  
 つとぞ射切つたる。鎬は海へ  
 入りければ、扇は空へぞ上が  
 りける。  
 「平家物語」よ

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ22

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

- ①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
- ②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)
- ③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

現代の言葉での文章

しばしの間空に舞っていたが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつと散り落ちた。  
夕日に輝く白い波の上に、金の日輪を描いた真っ赤な扇が漂って、浮きつ沈みつ揺れているのを、沖では平家が、舟端をたたいて感嘆し、陸では源氏が、えびらをたたいてはやし立てた。

古文の文章 平家物語「扇の的⑤」

陸 には 源氏 えびらをたたいてどよめきけり  
に 沖には 平家 ふなばたをたいてどよめきけり  
た 日は 白波の上 に 漂ひ 浮きぬ沈みぬ 感じたり  
夕 日の 光か やいたる 浮きぬ沈みぬ 揺らけり  
み 二もみも 虚空に ひらめきけるが 春風に 一も  
しばしは 虚空に ひらめきけるが 春風に 一も  
し ばしは 虚空に ひらめきけるが 春風に 一も  
虚 空 こくう 陸 くが

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ22

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

しばしは虚空にひらめきけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたりける。

夕日のかかやいたるに、みな紅の扇の日出だしたるが白波の上には漂ひ、浮きぬ沈みぬ揺られければ、沖には平家、ふなばたをたたいて感じたり、陸には源氏、えびらをたたいてどよめきけり。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ23

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

- 今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
- 古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

- ①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
- ②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)
- ③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

## 古文の文章 平家物語「扇の的⑥」

あまりのおもしろさに感に堪へざるにやとおぼしくて舟のうちより年五十ばかりなる男の黒革をどしの鎧着て白柄の長刀持つたるが扇立てたりける所に立つて舞ひしめたり

長刀 なぎなた

## 現代の言葉での文章

あまりのおもしろさに、感に堪えなかつたのであろう、舟の中から、年のころは五十歳ほど、黒革おどしの鎧を着て、白柄の長刀を持った男が、扇の立ててあつた所に立つて舞を舞つた。

[古文シリーズ] 古文に親しむ23

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

あまりのおもしろさに、感  
に堪へざるにやとおぼしくて、  
舟のうちより、年五十ばかり  
なる男の、黒革をどしの鎧着  
て、白柄の長刀持ったるが、  
扇立てたりける所に立って舞  
ひしめたり。  
り  
「平家物語」よ

〔古文シリーズ〕 古文に親しむ24

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

- ①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
- ②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)
- ③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章 平家物語「扇の的⑦」

伊勢三郎義盛与一が後ろへ歩ませ寄つて  
「御定ぞつかまつれ」と言ひければ今度は中  
差取つてうちくはせよつびいてしや頸の骨を  
ひやうふつと射て舟底へ逆さまに射倒す

伊勢三郎義盛 いせのさぶろうよしもり  
御定 ごじょう 中差 なかざし  
頸 くび

現代の言葉での文章

(そのとき)伊勢三郎義盛が、那須与一の後ろへ馬を歩ませ  
てきて、「御定であるぞ、射よ。」と命じたので、今度は中  
差を取ってしっかりと矢につがえ、十分に引き絞って、男  
の頸の骨をひょうふつと射て、舟底へまっさかさまに射倒  
した。

## 〔古文シリーズ〕 古文に親しむ24

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

## 解答

伊勢三郎義盛、与一が後ろへ歩ませ寄つて、「御定ぞ、つかまつれ。」と言ひければ、今度は中差取つてうちくはせ、よつびいて、しや頸の骨をひやうふつと射て、舟底へ逆さまに射倒す。

「平家物語」よ



〔古文シリーズ〕 古文に親しむ25

年 組 氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。

○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。

○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

<課題>

- ①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
- ②解答解説シートにある古文を音読しましょう。  
(すらすら読めるまで繰り返しましょう)
- ③(答え合わせが終わったら)解答解説シートにある古文を視写しましょう。

現代の言葉での文章

平家方は静まり返って音もしない、源氏方は今度もえびらをたたいてどっと歓声をあげた。「ああ、よく射た。」と言う人もあり、また、「心ないことを。」と言う者もあった。

古文の文章 平家物語「扇の的⑧」

平家の方には音もせず源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけり「あ射たり」と言ふ者もありまた「情けなし」と言ふ者もあり

方  
かた

[古文シリーズ] 古文に親しむ25

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

り

「平家物語」よ

平家の方には音もせず、源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけり。  
「あ、射たり。」と言ふ人もあり、また、「情けなし。」と  
言う者もあり。